

事業の実績	
1) 研究1: イップスの長期化に関わる要因の検討 英文校正を終え、体裁を整えた論文を、“Determinants of the prolongation of the yips in golfers: The roles of social support and overcommitment to sport” というタイトルで “Central European Journal of Sport Sciences and Medicine (CEJSSM)” に投稿し、現在、査読中である。	2) 研究2: イップスに伴った心理的成長の促進要因の検討 英文校正を終え、論文投稿の準備が完了したため、“Factors involved in the psychological development of baseball players experiencing the yips: social support, meaning-making processes, and overcoming the yips” というタイトルで “The Journal of Sports Science and Medicine (JSSM)” に近日中に投稿する。
具体的な成果	
1) 研究1: イップスの長期化に関わる要因の検討 イップス (Yips) は、「細かい動きが求められる課題の遂行中に見られる不随意運動からなる運動障害」 (Klämpfl et al., 2015) であり、このイップスと呼ばれる運動障害により、実力発揮が妨げられ、選手生命の危機に追い込まれるスポーツ選手や最悪な場合、精神病理学的な問題にかかる選手も存在する。イップスは、ゴルフ、野球、テニス、ダーツ、クリケット、卓球と様々なスポーツ種目において認められている。イップスにかかる先行研究を概観すると、イップスの発症機序の検討に主眼が置かれている。ここでは、同一動作を反復的に練習したことによる脳神経系の障害や、重要な場面における失敗などのトラウマ体験等、スポーツ場面では避けようのない要因が多く報告されている。すなわち、イップスの発症自体を完全に防ぐことは、極めて困難である可能性が示唆される。本研究では、イップスの発症を防ぐことよりも、発症後に症状を長期化させないことが重要なのではないかとという視座の基、イップスの長期化にかかる要因を明らかにすることを目的とした。なお、その際に、スポーツ競技に対して過度に傾注・傾倒している態度や姿勢を説明する「オーバーコミットメント」という概念と、周囲からのサポートを説明する「ソーシャルサポート」という概念の2つに着目し、両概念がイップスの長期化に及ぼす要因を確認した。目的に準じて、調査および分析を行なった結果、スポーツ競技に対して過度に傾倒している傾向 (オーバーコミットメントの傾向) にある者は、そうでない者に比べ、イップスが長期化している傾向があることが明らかになった。他方、ソーシャルサポートについては、イップスの長期化を規定している可能性は低いことが示された。これまでの国内外におけるイップス研究は、動作法、カウンセリング、セルフモニタリング、イメージ療法などの臨床心理学的アプローチや薬物療法や鍼療法、外科的治療などの医学的アプローチなどが実施および提案されてきた (Bell & Thompson, 2007; Bell eTEM al., 2011; Leveille & Clement, 2008; 向, 2016; 向・古賀, 2021; 永井, 2014; 及川, 2019)。これらの研究はいずれもイップス罹患患者に対する積極的・意識的な関与を通じた対処方法または治療法である。しかしながら、本研究の結果を基に、イップスの長期化を抑制する対処方法を考えていくと、「イップス罹患患者が、イップスの症状が現れている動作や競技に過度に傾注しないようにすること(オーバーコミットしないようにすること)」も一つの有効な方法になり得るのではないかと推察される。今後、この研究成果を基にイップスの対処法を検討し、介入研究を行うことによって、国内外のイップスに苦しむスポーツ選手、あるいはイップスにより競技離脱を強いられた選手を救うための一助になることが期待される。また、本学にもイップスの経験をしたと自覚する学生が確認されているため、今後、本研究から得られた知見を基に、本学のイップスに苦しむ学生へのサポートにも尽力したいと考えている。	

具体的な成果

2) 研究2: イップスに伴った心理的成長の促進要因の検討

従来、イップスの経験は、スポーツへの嫌悪や自信の喪失といった否定的な感情の生起、または逸脱行為や競技離脱の契機になるといった、ネガティブな心理的变化をもたらす経験として見なされてきた。一方近年、ポジティブ心理学の立場から、スポーツ傷害、スランプ、指導者やチームメイトとの軋轢、レギュラーから外されるなどといった否定的な経験が、スポーツ選手の心理的成熟の触媒としての機能があることが明らかになってきた (例えば, Wadey et al., 2013). 本研究では、このような考えに基づき、イップスの経験は、必ずしも全てのスポーツ選手にネガティブな心理的变化だけをもたらす経験ではなく、何らかのポジティブな心理的变化も生じさせているのではないかといった疑問に端を発した研究である。そして、本研究では、イップスの経験と肯定的変化の関係およびその変化の過程に關与する要因を明らかにすることを目的とした。

1308名の大学硬式野球部員(29大学)を対象に質問紙調査をし、その内、回答の不備がなく、本研究の対象者の包含基準を満たした227名(Mage = 19.81 years, SD = 1.02)を分析対象者とした。得られたデータを構造方程式モデルによって解析した結果、イップスの経験に伴った肯定的変化には、イップスの経験に対する意味づけの過程(meaning-making process; 個人がネガティブな経験をどのようにして意味づけているのか)の中でも調節を通じた意味づけ(accommodation; その体験を理解、解釈するために意識的、意図的な認知、感情的対処を行い、自身が持つ物事の見方や考え方を修正していくこと)と、ソーシャルサポート(social support)が影響することが明らかになった(Fig 1参照)。すなわち、イップスを発症した野球選手は、その対処過程において多様なネガティブ感情を喚起することになるが、その際に、自身が満足のいく適切なサポートをコーチやチームメイト、家族などから受けることによって、または、イップスの経験を理解するために、意識的に自身のもつ考え方を修正していくことによって、アスリートとしての心理的成長を遂げることができる可能性が示唆された。本研究は、世界中でイップスに苦しむスポーツ選手や、その選手らの指導者や支援者に新たなイップスに対する見方や考え方をもたらすという大きな意義を持つ。例えば、イップスの症状に苦しむ選手が、イップスの対処過程において、本研究から得られた知見を基に、自身がアスリートとしての肯定的変化の過程にいと認識することができれば、競技に対するモチベーションが促進することや、その後の、競技生活が良い方向に向かう契機になることが期待される。そのため、本研究の研究結果を、国際雑誌に掲載することは意義があることであると考えている。

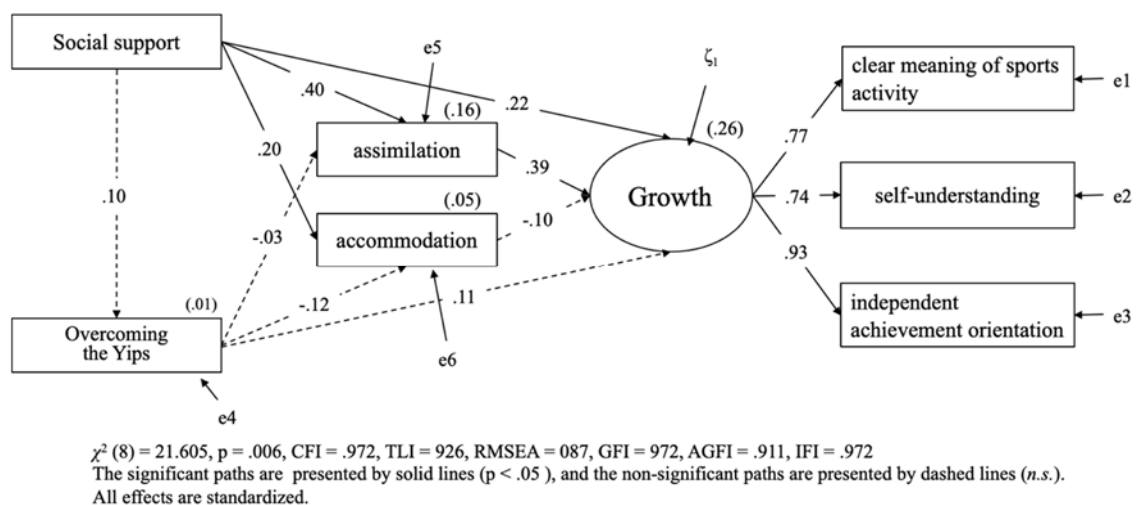


Fig 1 Structural equation model of the process of psychological growth associated with the experience of the yips